

解剖学 [系統解剖学、歯の解剖学]

担当講座（分野）：解剖学講座（機能形態学分野）

第1学年 後期

後期

講義

25.5 時間

演習

9.0 時間

学修方針（講義概要等）

歯ならびに身体の健康を維持するために必要な人体の正常構造と機能を理解することは、人体がどのような仕組みで生命活動を営み、恒常性を保っているかを知ることだけでなく、歯科医としての治療方針や治療計画を立案する際の基礎知識ともなる。第1学年の解剖学では、身体各部の支持器官の構造について、特に全身の骨と筋の配置や走行、これらの関連性を機能的意義もふくめて統合的に学修する。さらに、硬組織と周囲組織が密接な関係のもとで成り立っている歯の中で、特に永久歯の形態的特徴と変異についても学修する。またこれらの理解は、第2学年以降に学修する専門基礎科目や臨床歯科科目における学修基盤となるばかりでなく、将来歯科医として適切な治療や最新医療に対応するために必要な礎となる。

教育成果（アウトカム）

身体各部の方向用語、部位名など解剖学を学ぶ上で基盤となる用語を正しく理解し人体を診るために必要な基本的構造を理解できるようになる。また、人体を構成する骨と筋の解剖学的特徴、存在部位と機能の関連を考えながら学ぶことにより、形態の普遍性と変異を三次元的に理解できるようになる。歯の形態の意義、構造の理由を系統発生的に学ぶことにより、ヒトの歯の基本的な構造や形態の普遍性と変異を理解できるようになる。また、歯の外形を、内部構造を想像しながらスケッチする、あるいは提示する演習課題についてまとめることを通して、歯科臨床に必要な歯の立体構造について理解できるようになる。（ディプロマポリシー：4、8、9）

事前学修内容及び事前学修時間（30分）

シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。

各講義において事前学習すべき教科書のページを示すのであらかじめ読んでおくこと。また教科書に指定している演習教材のページを WebClass に提示するので、該当ページの演習あるいは講義の中で別に指示する予習内容について事前に演習を行い各授業前に提出すること。各授業に対する事前学修の時間は最低 30 分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。

講義日程

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
9月6日(火) 1限	藤原尚樹教授	解剖学概論 身体の方向用語、人体の構成と機能との関係性を理解する。	1. 身体を構築する各器官系について説明できる。 2. 人体の基準単位を説明できる。 3. 身体の方向用語を説明できる。 4. 身体の解剖学名を説明できる。 [C-3-1)-①] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P1～P4
9月7日(水) 2限	藤原尚樹教授	骨学概論 骨の形成様式、肉眼的構造と関節を理解する。	1. 骨の形成様式の相違を説明できる。 2. 骨の肉眼的構造を説明できる。 3. 関節の構造と運動を関連して説明できる。 [C-3-1)-①] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P5～P7, P31～36
9月13日(火) 1限	藤原尚樹教授	骨学：椎骨・肋骨 椎骨の基本的な形態と脊柱としての機能、肋骨との関連性を理解する。	1. 椎骨の基本構造が説明できる。 2. 各椎骨の特徴を説明できる。 3. 椎骨の彎曲と体重支持の関連性について説明できる。 4. 肋骨の連結と胸郭の構造を説明できる。 [C-3-4)-(2)-①] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P7～P11
9月14日(水) 2限	藤原尚樹教授	骨学：上肢骨・下肢骨 四肢骨の基本としての上肢骨・下肢骨・骨盤の構成を理解する。	1. 上肢帯・下肢帯を構成する骨を列挙できる。 2. 肩関節、股関節の構造とその特徴を説明できる。 3. 上腕骨、橈骨、尺骨と大腿骨、脛骨、腓骨の形態と特徴を説明できる。 4. 肘関節・膝関節の構造を説明できる。 5. 手根骨とその化骨年齢を説明できる。 6. 手と足の骨の異同を説明できる。 7. 脊椎との連結と骨盤の構造を説明できる。 [C-3-4)-(2)-①] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P11～P17
9月20日(火) 1限	藤原尚樹教授	骨学：頭蓋冠、内・外頭蓋底、眼窩・鼻腔 頭蓋骨を構成する骨を理解し、それぞれの縫合と形成を理解する。顔面骨・眼窩、鼻腔の構築を理解する。	1. 頭蓋骨の基本的配列を説明できる。 2. 頭蓋骨相互の関節（縫合）を説明できる。 3. 内・外頭蓋底の構造、窩、裂、管、孔の形態と位置について説明できる。 4. 眼窩、鼻中隔、鼻腔、副鼻腔、口蓋、翼口蓋窩、顎関節を構成する骨と構造との関係を説明できる。 [E-2-1)-②] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P94～P111, 117～120

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
9月21日(水) 2限	藤原尚樹教授	筋学概論 筋学：体幹 運動器としての筋肉の解剖学的特徴を理解する。 体幹の筋肉の存在意義と特徴を理解する。	1. 筋肉の種類と特徴を説明できる。 2. 筋の起始と停止を説明できる。 3. 筋の作用について説明できる。 4. 背部の筋の種類と主な機能を説明できる。 5. 胸部の筋の種類と主な機能を説明できる。 6. 腹部の筋の種類と主な機能を説明できる。 [C-3-4)-(3)-①③] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P18～24
9月27日(火) 1限	藤原尚樹教授	筋学：上・下肢の筋 上肢と下肢の筋の特徴を理解する。	1. 上肢帯の筋を説明できる。 2. 自由上肢の筋を説明できる。 3. 主動筋と拮抗筋の働きを説明できる。 4. 下肢帯の筋を説明できる。 5. 自由下肢の筋を説明できる。 6. 上肢と下肢の筋の違いを説明できる。 [C-3-4)-(3)-①③] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P24～30
9月28日(水) 2限	藤原尚樹教授	頭頸部の筋の概略 骨学・筋学のまとめ演習 頭頸部の筋の種類と特徴を理解する。 身体を構成する骨と筋の構成を整理し、それらの関連性について理解する。	1. 頭頸部の主な筋の種類と配置の概略を説明できる。 2. 全身の骨・筋を列挙できる。 3. 各骨の連結、関節を説明できる。 4. 頭蓋骨の連結を説明できる。 5. 孔、裂等の脈管・神経が通過する構造物を説明できる。 6. 筋の起始・停止と機能について説明できる。 [C-3-4)-(3)-①③、E-2-1)-③⑥] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P1～17, 31～36, 96～111, 117～132, 224～231
10月18日 (火) 1限	藤原尚樹教授	骨学・筋学のまとめ 到達度試験	1. 全身の骨・筋を列挙できる。 2. 各骨の連結、関節を説明できる。 3. 頭蓋骨の連結を説明できる。 4. 孔、裂等の脈管・神経が通過する構造物を説明できる。 5. 筋肉の起始・停止と機能について説明できる。 [C-3-4)-(3)-①③、E-2-1)-③⑥] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P1～17, 31～36, 96～111, 117～132, 224～231
10月19日 (水) 2限	藤原尚樹教授	歯の解剖 概論 歯とはなにか、歯の用語、ヒトの臼歯の進化を理解する。	1. 歯の概念を説明できる。 2. 歯の起源、植立様式、交換について説明できる。 3. 歯の種類、方向用語を説明できる。 4. 歯式、歯の記号を説明できる。 5. 歯の歯面区分、外形区分を説明できる。 [E-3-1)-①②] 事前学習：教科書の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P1～P36

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
10月25日 (火) 1限	藤原尚樹教授	歯の解剖 上顎切歯 スケッチ演習 歯の測定法、ノギスの使い方 を理解する。 上顎中切歯を正しく計測し、 スケッチに表現できる。	1. 歯の概念を図解できる。 2. 歯の方向を表現できる。 3. 歯の左右側鑑別点を図解できる。歯の外形 を理解するための計測ポイントを理解でき る。 4. ノギスを正しく使用し、歯の外形を計測で きる。 5. 上顎中切歯を例に、その特徴を理解し、計 測に基づきスケッチに表現できる。 [E-3-1)-②] 事前学習：教科書の以下の領域を読み、内容を まとめておくこと。P187～P199
10月26日 (水) 2限	藤原尚樹教授	上顎・下顎切歯 上顎・下顎切歯の形態的特 徴を理解する。	1. 切歯の概念を説明できる。 2. 上顎中切歯の特徴を説明できる。 3. 上顎側切歯の特徴を説明できる。 4. 下顎中切歯の特徴を説明できる。 5. 下顎側切歯の特徴を説明できる。 6. 上下顎切歯の鑑別点を説明できる。 [E-3-1)-②] 事前学習：教科書の以下の領域を読み、内容を まとめておくこと。P37～P51
11月1日(火) 1限	藤原尚樹教授	上・下顎切歯演習 上顎・下顎切歯の形態的特 徴を理解する。	1. 上顎中切歯の特徴を理解し、スケッチに表 現できる。 2. 上顎側切歯の特徴を理解し、スケッチに表 現できる。 3. 下顎中切歯の特徴を理解し、スケッチに表 現できる。 4. 下顎側切歯の特徴を理解し、スケッチに表 現できる。 [E-3-1)-②] 事前学習：教科書の以下の領域を読み、内容を まとめておくこと。P37～P51、10月26、27日 の講義内容を復習しておくこと。
11月2日(水) 2限	藤原尚樹教授	上顎・下顎犬歯 上顎・下顎犬歯の形態的特 徴を理解する。	1. 犬歯の定義を説明できる。 2. 上顎犬歯の特徴を説明できる。 3. 下顎犬歯の特徴を説明できる。 4. 上下顎犬歯を区別できる。 5. 左右側の鑑別点を説明できる。 [E-3-1)-②] 事前学習：教科書の以下の領域を読み、内容を まとめておくこと。P51～P56
11月8日(火) 1限	藤原尚樹教授	上・下顎犬歯演習 上顎・下顎犬歯の形態的特 徴を理解する。	1. 上顎犬歯の特徴を理解し、スケッチに表現 できる。 2. 下顎犬歯の特徴を理解し、スケッチに表現 できる。 [E-3-1)-②] 事前学習：教科書の以下の領域を読み、内容を まとめておくこと。P51～P56 11月9日の講義内容を復習しておくこと。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
11月9日(水) 2限	藤原尚樹教授	上顎小白歯 上顎小白歯の形態的特徴を理解する。	1. 上顎小白歯の概念を説明できる。 2. 上顎第一小白歯の特徴を説明できる。 3. 上顎第二小白歯の特徴を説明できる。 4. 歯の進化を説明できる。 5. 第一・第二小白歯を区別できる。 6. 左右側の鑑別点を説明できる。 [E-3-1)-②] 事前学習：教科書の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P56～P61
11月16日(水) 2限	藤原尚樹教授	下顎小白歯 下顎小白歯の形態を理解する。	1. 下顎小白歯の概念を説明できる。 2. 下顎第一小白歯の特徴を説明できる。 3. 下顎第二小白歯の特徴を説明できる。 4. 歯の進化を説明できる。 5. 第一・第二小白歯を区別できる。 6. 左右側の鑑別点を説明できる。 [E-3-1)-②] 事前学習：教科書の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P62～P66
11月30日(水) 2限	藤原尚樹教授	上顎・下顎小白歯演習 上顎・下顎小白歯の形態的特徴を理解する。	1. 下顎第一小白歯の特徴を理解し、スケッチに表現できる。 2. 下顎第二小白歯の特徴を理解し、スケッチに表現できる。 [E-3-1)-②] 事前学習：教科書の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P56～P66 11月16,17日の講義内容を復習しておくこと。
12月7日(水) 2限	藤原尚樹教授	上顎大臼歯 上顎大臼歯の形態的特徴を理解する。	1. 上顎大臼歯の概念を説明できる。 2. 上顎第一大臼歯の特徴を説明できる。 3. 上顎第二大臼歯の特徴を説明できる。 4. 咬合圧の負担を説明できる。 5. 遠心退化の一般概念を説明できる。 6. 多根歯を説明できる。 7. 左右側の鑑別点を説明できる。 8. 咬頭数と裂溝の関連性を説明できる。 9. 第一・第二大臼歯を区別できる。 10. 第三大臼歯の特徴を説明できる。 [E-3-1)-②] 事前学習：教科書の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P66～P76
12月13日(火) 1限	藤原尚樹教授	下顎大臼歯 下顎大臼歯の形態的特徴を理解する。	1. 下顎大臼歯の概念を説明できる。 2. 下顎第一大臼歯の特徴を説明できる。 3. 下顎第二大臼歯の特徴を説明できる。 4. 咬頭の機能を説明できる。 5. 遠心退化の一般概念を説明できる。 6. 咬頭数と裂溝の関連性を説明できる。 7. 左右側の鑑別点を説明できる。 8. 第一・第二大臼歯を区別できる。 9. 第三大臼歯の特徴を説明できる。 [E-3-1)-②] 事前学習：教科書の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P76～P83

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
12月14日 (水) 2限	藤原尚樹教授	上顎・下顎大臼歯演習 上顎・下顎大臼歯の形態的特徴を理解する。	1. 上顎第一大臼歯の特徴を理解し、スケッチに表現できる。 2. 上顎第二大臼歯の特徴を理解し、スケッチに表現できる。 3. 下顎第一大臼歯の特徴を理解し、スケッチに表現できる。 4. 下顎第二大臼歯の特徴を理解し、スケッチに表現できる。 [E-3-1)-②] 事前学習：教科書の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P66～P83 12月1, 8日の講義内容を復習しておくこと。
12月20日 (火) 1限	藤原尚樹教授	歯髓腔、歯列・咬合 歯髓腔の形態と加齢変化を理解する。 歯列弓の形態、大きさ、上下顎の咬合状態を理解する。 歯科保存（齲蝕・歯内療法学・歯周療法学）に関連する臨床解剖学を理解する。	1. 歯髓腔の概念を説明できる。 2. 歯の外景と歯髓腔の関連性を説明できる。 3. 顎骨と歯列弓の関係を説明できる。 4. 上下顎の歯の接触関係を説明できる。 5. 接触点、歯間隙、鼓形空隙を説明できる。 [E-2-2)-④, E-3-1)-②] 事前学習：教科書の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P22～27, 125～P141
12月21日 (水) 2限	藤原尚樹教授	永久歯 まとめ演習 (永久歯、歯髓腔、歯列・咬合)	1. 上下顎永久歯の鑑別点を説明できる。 2. 永久歯の左右の鑑別点を説明できる。 3. 永久歯歯種の鑑別点を説明できる。 4. 永久歯の特徴を描写できる。 [E-3-1)-②] 事前学習：教科書の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P1～P83, P123～P167

教科書・参考書 （教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書 名	著者氏名	発行所	発行年
教	口腔解剖学 第2版	井出吉信ほか編	医歯薬出版	2018年
教	図説 歯の解剖学 2版	高橋和人ほか著	医歯薬出版	1998年
教	口腔顎顔面解剖ノート	藤村朗ほか編、井出吉信 監修	学建書院	2019年
参	基礎から学ぶ歯の解剖	前田健康 編 酒井英一 著	医歯薬出版	2018年
参	みえる人体 構造・機能・病態	S. Parker 著 佐藤達夫、松尾理 監訳	南江堂	2014年

成績評価方法

到達度試験ならびに後期試験と提出物（課題・スケッチ等）を総合して合計が60点以上を合格とする。
内訳：到達度試験（40％）と後期試験（50％）、提出物（10％）。

特記事項・その他

各講義において学習した内容は、次回以降の講義の基盤となる。すなわち、各講義はすべて積み重ねの講義体系を取っているため、講義ごとにその内容をしっかり理解しておく必要がある。それには教科書や参考資料において人体の骨・筋の構造や機能、及び各歯種の形態的特徴についての記載を読み、関連性の不明瞭な内容についてリストアップしておくなど事前学習が重要であり、そのことが講義内容の整理や三次元的な身体、歯の構造についての理解を助ける。また、到達度試験や定期試験の前には演習を設定しており、それまでの単元の振り返りをするきっかけとなるばかりでなく、講義内容全体を総合的に整理し、関連性を確認するための動議づけになっている。

各単元において、事前学習すべき教科書のページを指示するので、それを参考に事前学習を行うこと。定期的に演習課題を提示し、学生同士で教えあう時間を設け、全体及び個々の学生の理解を深める。

WebClass において、アクティブラーニングの課題、演習課題、その他の情報提示、フィードバックを行う。歯の形態のスケッチは提出後、修正点をフィードバックする。

授業に使用する機械・器具と使用目的

MacBook Pro 13inch	Apple	1	視聴覚用機器、基礎実習・研究用機器	講義・実習の資料作成と提示用
iMac 27 inch	Apple	1	視聴覚用機器、基礎実習・研究用機器	講義・実習の資料作成と提示用
デジタル一眼レフカメラ一式	D700	1	基礎実習・研究用機器	解剖実習遺体の破格症例の画像記録
3次元カラー造形機 ZPrinter450 一式		1	基礎実習・研究用機器	CT 3D 画像の実体化による講義のため
カラーコピー機 image RUNNER ADVANCE	C3530F II	1	視聴覚用機器	講義の配布資料作成
TeraStation TS3410DN 4TB	TS3410DN0404	1	視聴覚用機器	講義の配布資料作成
MS シュレッダー	MSR-25CM	1	視聴覚用機器	講義の配布資料作成